

北陸地方整備局・北陸信越運輸局 バリアフリー教室等の取組みについて

令和6年7月

国土交通省北陸信越運輸局
交通政策部バリアフリー推進課

国土交通省北陸地方整備局
企画部広域計画課

日時：令和5年7月27（木） 9：30～15：30
場所：新潟美咲合同庁舎 敷地内
主催：北陸地方整備局、新潟地方気象台、北陸信越運輸局
バリアフリー体験参加者：24組（満員御礼）

実施概要

地域の方々に、国土交通行政の一端を知っていただくことや防災意識の向上を目的として、「北陸地方整備局・新潟地方気象台・北陸信越運輸局見学デー」が開催されました。イベントスペースに「バリアフリー体験コーナー」を設け、誰もが生活しやすいまちづくりの大切さを学んでもらうため、車いすでのバスの乗降体験や高齢者疑似体験をとおして、学んでいただきました。

車いす体験のバスは、当局環境・物流課及びバス事業者ご協力のもと、新潟県で1台しかない小型燃料電池バスをお借りしました。

次世代バスのシステムや外装・内装に興味を示す来場者、運転席でポーズを決める子どもたちで例年人気のスポットです。



会場のようす・参加者の声



車いすの基本的な使い方レク



「自力ではスロープを上れないけど押ししてもらえるとスムーズに乗れる♪」



「案外車内が狭くて、ベビーカーでの乗車は周りの目が気になる」というお声も。



「車いすを固定する装置があることを発見!!」



「降りるときは車いすを後ろ向きにして降ろしてね」「ゆっくり降りないと怖い!!」

日時：令和5年9月10日（日） 10:00～15:30
場所：万代シテイ通り（新潟市）
バリアフリー体験参加者：20名（内訳：車いす体験15名、高齢者疑似体験5名）

実施概要

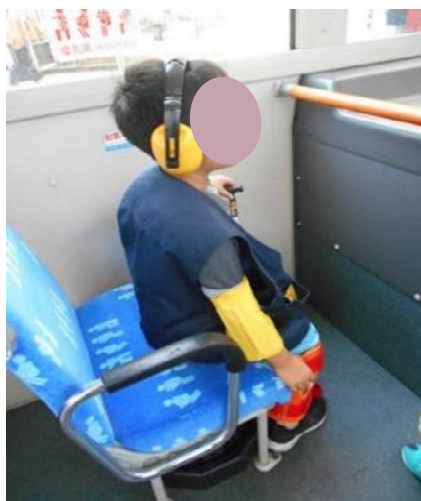
万代シテイバスまつり2023でバリアフリー教室を開催しました。バリアフリー体験ではノンステップバスに車椅子で乗降車する体験と特殊な重りや装具を着けてバスに乗降車する高齢者疑似体験を実施しました。それらの体験を通じ、障害等の有無にかかわらずお互いに支え合うことの大切さを発信しました。

また、バリアフリー教室に来場した人を対象に「心のバリアフリーに関するアンケート」を実施しました。

●バリアフリー体験のようす・参加者の声



乗務員が車椅子の乗降車をサポート。車椅子を固定し、運行時の安全を確保。



高齢者体験キットを着けてバスに乗車「少し動くだけでもつかれる」



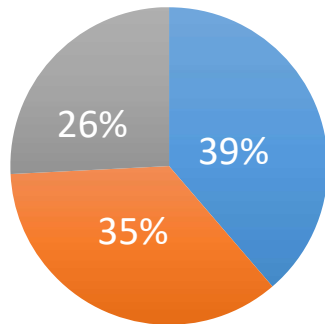
「いつもより足が曲がらないだけで、動作が大変なことに気づいた」



バス停から通路までのわずかな段差も乗り越えるのに一苦労。周りのサポートが重要。

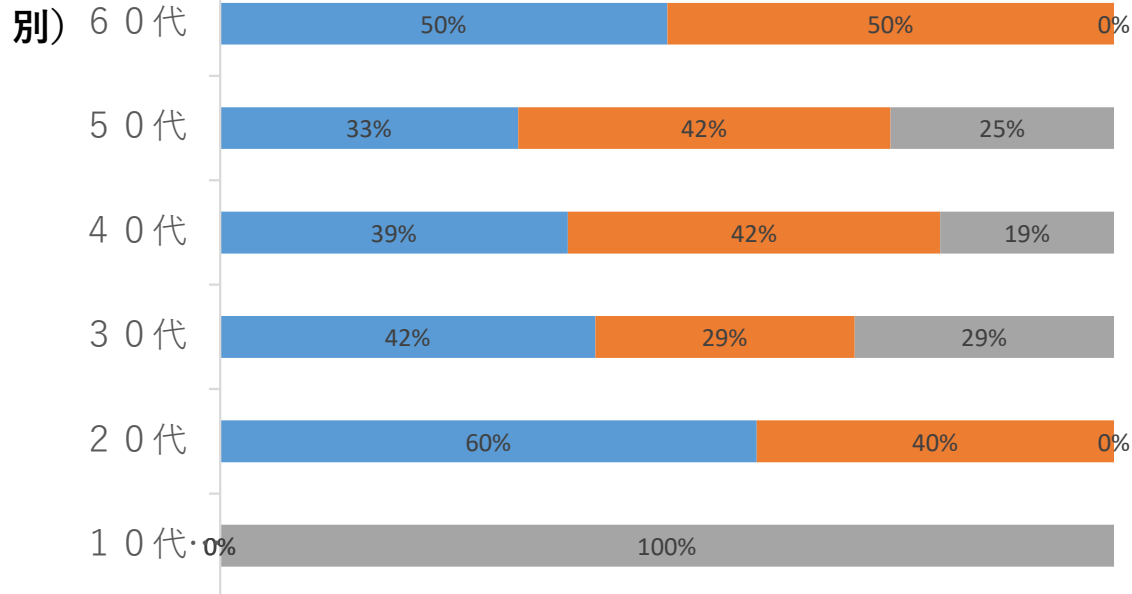
設問1：「心のバリアフリー」という言葉を知っていますか。（回答数=93）

（全年齢）

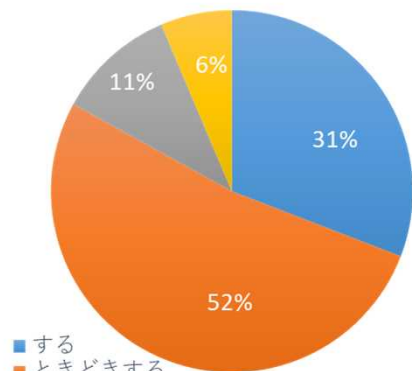


- 知っている
- 聞いたことはあるがよく知らない
- 全く知らない

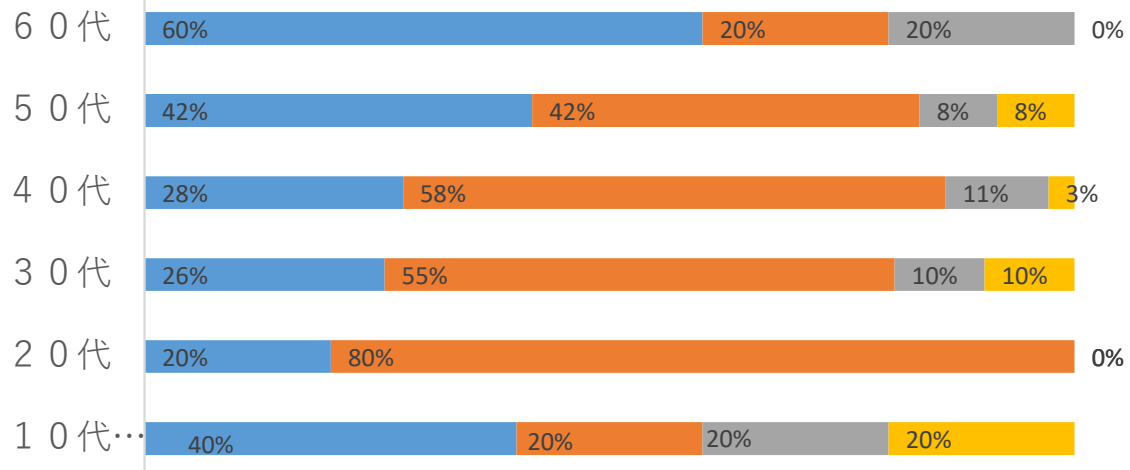
（年代別）



設問2：日頃から高齢者、障害者、妊婦、ベビーカーユーザー、子ども連れ等が困っているのを見かけたら声かけや手助けをしますか。（回答数=94）

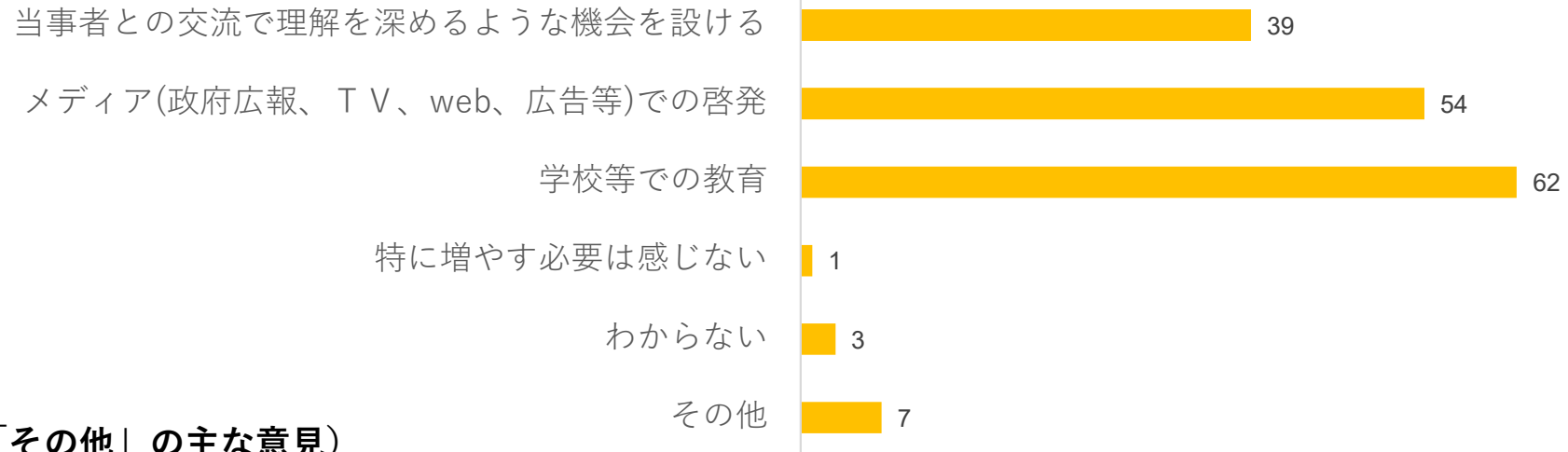


- する
- ときどきする
- していない
- 困っている様子を見たことがない



設問3.高齢者、障害者、妊婦、ベビーカーユーザー、子ども連れ等の立場を理解して行動できるような人を増やすためには、どうすればよいと思いますか（複数回答可）

（全年齢）



（「その他」の主な意見）

<30代>

- ・学校と保護者との勉強、経験
- ・手助けが必要かわからない、かえって迷惑になりそう

<40代>

- ・介助している時に周りの人がじろじろ見ないような社会にする。
- ・当事者が困っている様子を見せない、当事者が助けを求めるのも大事

<50代>

- ・お手本となる人が実践する姿を見せ、その風景が一般化すると良い
- ・バスの運転士のアナウンスを活用する



公共交通利用促進PRキャラクター のりたろう

日時：令和5年10月2日（月） 13：35～14：20
場所：長野市若里多目的スポーツアリーナビッグハット前
（長野県長野市）
主催：北陸信越運輸局 一般社団法人長野県タクシー協会
協力：社会福祉法人長野市身体障害者福祉協会、長野市視覚
障害者福祉協会、長野市聴覚障害者協会
乗車体験参加者：8名

【実施概要】

ジャパントクシー（UDタクシー）、シエンタ（福祉タクシー）、
コンフォート（セダン型）の3種類の形状の異なるタクシー車両
を用いて、乗務員による車椅子スロープの設置と格納（シエンタ
のみ）、乗降時の介助、乗務員とのコミュニケーションといった
乗車時の一連の流れを、視覚障害者（盲導犬ユーザー、白杖ユー
ザー）、車椅子利用者（手動車椅子ユーザー、電動車椅子ユー
ザー）、聴覚障害者、身体障害者（肢体不自由）の計8名の方々に
体験いただきました。

※実車走行はおこなっておりません。

【体験者の声】

- ・介助を受けるのは初めての経験だったが、シートベルトの装着
など乗務員のケアがあり、安心して乗れた。（肢体不自由）
- ・段差があることを伝えてくれるのはありがたいが、「上り」な
のか「下り」なのかを言ってもらえると分かりやすい。スライ
ドドアかどうか、手すりの場所も教えてもらえるとありがたい。
（白杖ユーザー）
- ・スライドドアの場合に乗るときの立ち位置が異なることについ
て声をかけてくれるのはよかった。（肢体不自由）
- ・ジャパントクシーはスロープ設置に時間がかかるのでシエンタ
のように簡単に設置できると、乗務員としても負担が少なく
済むのではないかと。（電動車椅子ユーザー）

【体験の様子】



日 時： 令和5年10月2日（月） 14：35～15：50
 場 所： 長野市若里市民文化ホール会議室（長野県長野市）
 参加者： 乗車体験参加者、長野市内のタクシー関係者など
 パネリスト13名、聴講者約20名
 主 催： 北陸信越運輸局、一般社団法人長野県タクシー協会
 協 力： 社会福祉法人長野市身体障害者福祉協会、長野市視覚障害者福祉協会、長野市聴覚障害者協会

【実施概要】

障害をはじめとする様々な特性を理解し、多様なニーズに応え、全ての利用者が快適で安心してタクシーをご利用いただけるための課題を探るとともに、サービス提供者とタクシー利用者双方が信頼関係や価値を高めることを目的に意見交換を行いました。

コーディネーターに、移動等円滑化評価会議北陸信越分科会長 中村美香 氏を迎え、障害当事者（8名）とタクシー経営者（2名）とタクシー乗務員（3名）の計13名により、誰もが快適で利用しやすいタクシーを目指して、熱心にご議論いただきました。

【意見交換の様子】



【パネリストの主な発言等】

〈車椅子利用者〉

- ・ 飲みに行った帰りのように、利用時間が事前に分からない場合でも予約なしにスムーズに対応してもらえるようにしてほしい。
- ・ 車椅子の場合など、パッと見て障害があるのが分かると拒否されることは珍しくない。駅なのに運転手に外れくじを引いたような顔をされたり、車椅子は自車に乗らないからと断られたりもする。
- ・ 大型の電動車椅子で、スロープの耐荷重を超過する、幅が足りないといった事情で乗れない場合でも、どうすれば乗れるようになるのか考えてくれることが、この先に繋がる。

〈聴覚障害者〉

- ・ 筆談では時間がかかるため、音声アプリを活用したコミュニケーションが取れるとよい。

〈視覚障害者〉

- ・ 盲導犬が乗り込んだ向きで降りられるように左側ドアから乗ったら右側ドアから降りられるよう配慮してもらえるとありがたい。
- ・ 盲導犬をケージやトランクに入れろと言われていたり、明らかに順番が来ているのに乗せてくれず、「誰か乗せてやってくれ」と後ろの運転手に聞きに行かれたりする。
- ・ 以前、知人が〇〇駅だと言われて降ろされた場所が〇〇駅ではなかった。また、降ろす場所については駅の入口など利用者が納得できる場所で降ろして欲しい。

障害当事者が日頃感じているエピソードをコーディネーターに引き出していただき、そのエピソードを聞いたタクシー関係者の方々からは『普段、障害当事者を乗せていても胸の内を言ってもらえる機会がなく、自分が思っている固定概念もあったが、今回ストレートに意見を言ってもらえてよかった。社内には障害当事者を乗せた経験がないドライバーも多いので、今日の経験を共有して同じようなレベルのサービスを提供していけるようにしたい』といった発言がありました。

【聴講者からの主な意見等】

- ・ スライドドア一つ取ってもバリアとなることが分かった。
- ・ タクシー事業者として、現でも乗車拒否があることに驚くとともに、恥ずかしく思う。社内教育を強力に進めていく必要がある。
- ・ 障害の有無だけでなく、お客様ごとに適切な対応が出来るよう取り組んでいきたい。
- ・ ジャパンタクシーの準備に時間がかかるためドライバーの負担軽減のためにも改善を、と障害当事者側からもドライバーに配慮した発言をしていただいたことが印象に残った。

日 時：令和5年10月8日（日）10：00～15：00
 場 所：金沢市役所庁舎前広場
 主 催：金沢市、金沢市交通まちづくり協議会
 協 力：北陸信越運輸局石川運輸支局
 参加者：約2,000名（イベント来場者）



都市の中心部でマイカーを使わない日を設け、交通や環境、都市生活と車の使い方について、市民が考える機会を提供する社会啓発活動「カーフリーデー2023in金沢」が金沢市で開かれました。会場である金沢市役所庁舎前広場では交通事業者や大学など様々な機関による展示や体験等が実施されました。石川県内に1台しかないエレベーターバスや、ユニバーサルデザインタクシーであるジャパントクシーを用いた乗車体験では、車椅子のまま乗車できることに「すごく便利」「こういう車がもっと増えてほしい」といった声が上がっていました。

乗車体験の実施にあたっては、交通事業者と協力し、体験者やそのご家族等に車椅子の乗降時の注意点や、スロープ昇降時など操作時におけるコミュニケーションの重要性等を説明しました。



石川運輸支局もブース出展をおこない、公益社団法人石川県バス協会と連携し、バスの利用促進に関するPR活動をおこなったほか、高齢者障害者等施設などの適正利用に関するポスターの展示やバリアフリーハンドブックの配布をとおして「心のバリアフリー」に関する周知・啓発を行いました。

ブースには公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」も駆けつけ、多くの親子連れが記念撮影をするなど大盛況で、用意していたバリアフリーハンドブックも午前中でなくなってしまうほど多くの方に興味を持っていただきました。



日 時：令和5年11月30日（木）9：10～12：20
 場 所：富山短期大学
 主 催：北陸信越運輸局
 協 力：富山地方鉄道株式会社、富山県タクシー協会
 対象者：富山短期大学幼児教育学科生（78名）

実施概要

富山短期大学幼児教育学科の学生を対象にバリアフリー教室を開催しました。

手や足に重りを着け、見えづらくなるゴーグルを着用した**高齢者擬似体験**や、目が見えない状態で折り紙を折ってもらう**視覚障害者擬似体験**、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーに乗降する**車椅子体験**などを通し、障害の有無にかかわらず、お互いが支え合い、誰もが安心して生活できることの大切さを学んでもらいました。

参加者の声

高齢者擬似体験

- ・ 普段何気なく行っている動作でも制限があると簡単ではない。
- ・ 信号を渡る時など危険なので命に関わる。そのため正しい知識が必要。
- ・ 視覚、聴覚、四肢不自由で生活するには苦労ばかりだと感じたので支援の仕方を考えさせられた。
- ・ 人によって不自由なところは違うので、その人に合わせた援助をしたり声かけをしたりしなければいけないと思った。

視覚障害者擬似体験

- ・ 情報が伝わりにくいので、具体的な指示やゆっくりと大きな声で話すと伝わりやすいことに気づいた。
- ・ 色によっても区別がつかない形があり見えないことに驚いた。
- ・ 時計の針の位置を使って説明するとお互いに良いと気づいた。
- ・ 今までの経験があるから折り紙を折ることができたけれど、小さな子供に対して、普段馴染みのないものを言葉で説明するのはとても不安に思った。

車椅子体験

- ・ 車椅子に乗ってみて、普段の歩くスピードでは速く感じ、少しの段差や坂でも怖かった。
- ・ 介助側も乗る側もお互い怖い思いをしないように安心できるような声かけが必要だと理解した。



【車椅子体験（ノンステップバス）】



【車椅子体験（UDタクシー）】



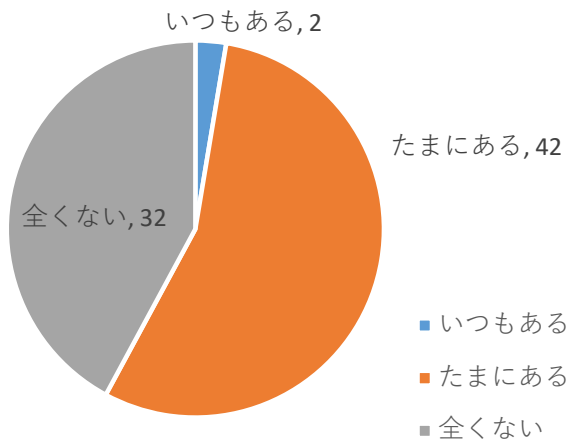
【高齢者擬似体験】

【視覚障害擬似体験】

バリアフリーに関するアンケートの実施

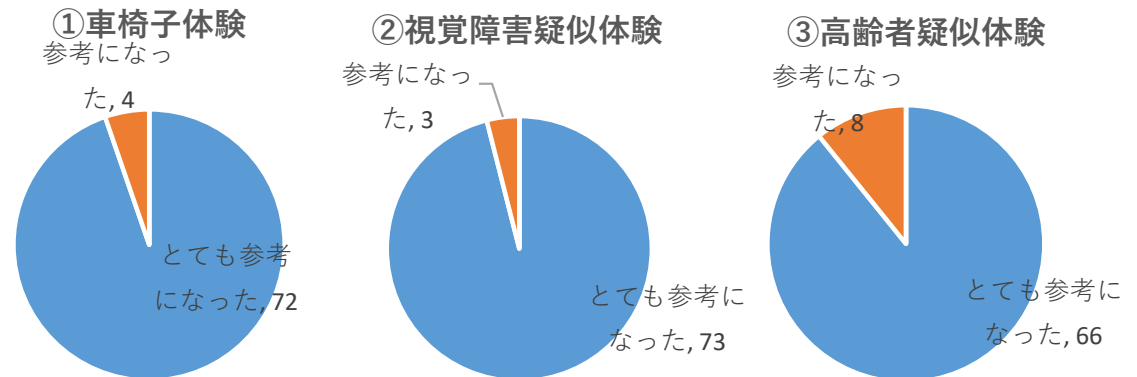
バリアフリー教室終了後、参加者を対象にバリアフリー体験の感想や「心のバリアフリー」に関するアンケートを実施しました。

1. 普段から移動などで困っている人と接する機会はありますか。(回答数:76)

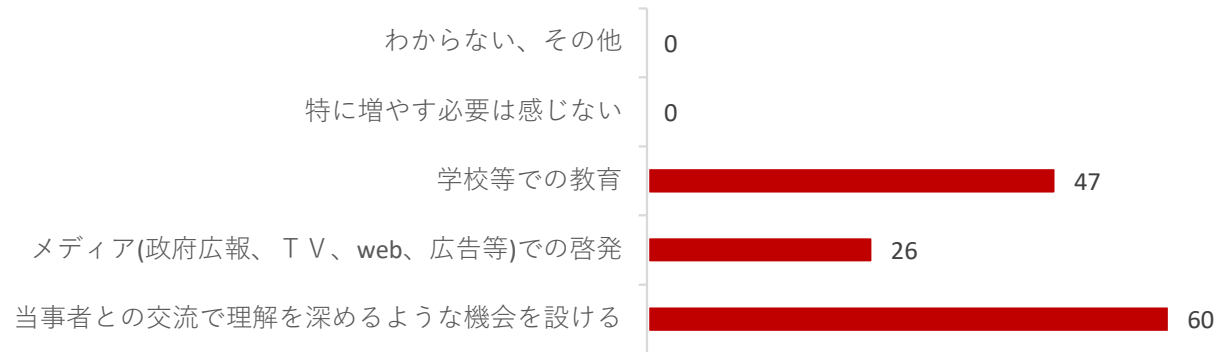


公共交通利用促進PRキャラクター のりたろう

2. バリアフリー体験について今後の生活に活かせそうですか。(回答数:76)



3. 「心のバリアフリー」を実践できる人を増やすにはどうすればよいとおもいますか。(複数回答可)



4. あなたが「心のバリアフリー」を実践するためにはどうすればよいとおもいますか。(自由記述)

- ・「自分だったら」と考えてみる。
- ・偏見をなくし困っている人の立場に立ち寄り添うこと。
- ・当事者の人と共に考える。
- ・障害があっても自由に移動できるよう、見かけたときは声をかけサポートできるようにする。
- ・多くの人に心のバリアフリーを知ってもらうこと。
- ・思い込みをなくすこと。相手のことを理解しようという気持ちを持つこと。
- ・障害の有無にかかわらず、それぞれ不都合があるところは支え合える環境にする。
- ・相手の立場に立って、様々な状況を予想する。

日 時：令和6年2月7日（水）9：35～11：55
場 所：新潟市立中之口東小学校
主 催：北陸信越運輸局
協 力：西蒲区社会福祉協議会、新潟交通観光バス株式会社
対象者：新潟市立中之口東小学校 4年生児童（19名）

○実施概要

新潟市立中之口東小学校の児童を対象にバリアフリー教室を開催しました。

児童たちは、車椅子を使って校内施設とバス乗降時のバリアフリーを体験しました。それぞれがペアを組んで車椅子の使用者役と介助者役に分かれ、使用方法、バス乗降時の介助方法や車椅子を固定する装置の説明を受け、普段の生活で車椅子を使用する方にとってどのような支援が必要になるかを学んでもらいました。

○参加した児童の感想（抜粋）

バスでは、車いすの乗り降りにとっても力があることやバスには障がいをもつ方のための仕組みがあることが分かりました。

校内での車いす体験では、いつも見ている学校の景色と違ったのでいい経験になりました。

廊下や外など平らではないところは、わずかな段差でも移動してみると、段差で引っかかって想像していた以上に移動しにくかったです。

車いすに乗っている人の気持ちが少しわかったような気がします。

これからは車いすの人がいたら積極的に行動して、少しでも不自由なく暮らせるようにしたいです。

